

8.1.11 ボランティア

(1) 調査事項

調査事項は、表 8.1.11-1 に示すとおりである。

表 8.1.11-1 調査事項

区 分	調査事項
予測した事項	・東京 2020 大会の実施により増減すると思われる、ボランティア活動の状況
予測条件の状況	・2013 年度（平成 25 年度）以降の計画や取組状況
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・東京 2020 大会に向けたボランティアウェブサイト「東京ボランティアナビ」を運営し、東京 2020 大会のボランティアをはじめ、各種ボランティアについての情報発信やボランティア活動を支援する取組の紹介を行う。 ・東京 2020 大会では、年齢、性別、国籍、障害の有無に関わらず、多様な人々がボランティアとして参加できるようフィールド キャスト（大会ボランティア）80,000 人、シティ キャスト（都市ボランティア）30,000 人程度の計 110,000 人程度のボランティアの参加の機会を創出する。また、組織委員会は、東京都以外の競技会場を有する自治体や東京都の区市とも連携して、ボランティアの参加の機会を創出する。 ・組織委員会では、全国約 800 の大学・短期大学と連携協定の締結をスタートさせ、様々な活動に取り組んでいる。この一環として、学生による新しいオリンピック・パラリンピックムーブメントの広がり、東京 2020 大会のボランティアとして大会を支える存在になることを目指し、連携協定を締結している大学・短期大学に在学する学生及び教職員を対象に「大学連携'18 プログラム 東京 2020 オリンピック・パラリンピックボランティア募集説明会」を開催した。 ・大会ボランティア応募者を対象に実施したオリエンテーションでは、手話通訳者や筆談ツール等の整備、タブレット端末でのテレビ電話による遠隔手話通訳等の聴覚障害者向けコミュニケーションツールの導入、託児対応サポートなど、多様な参加者への配慮を行った。 ・東京都では、ボランティアの着実な育成と共助社会の実現に向けて、ボランティア人材の育成等を行っている。東京都及び組織委員会では、オリンピック・パラリンピック競技大会に関する知識など、フィールド キャスト（大会ボランティア）・シティ キャスト（都市ボランティア）に共通して必要な研修を連携して実施し、東京 2020 大会を契機としたボランティア人材の育成を行う。 ・組織委員会では、フィールド キャスト（大会ボランティア）向けの研修において、暑さ対策の基礎知識の提供や注意喚起、リーダーに対する周知徹底等を行う。また、東京都では、テストイベントにおいてシティ キャスト（都市ボランティア）の試行を行った。テストイベントでの検証結果を踏まえ、当日の天候や体力等を踏まえた休憩等のマニュアルの作成、かぶる傘の提供等の対応を検討する。

(2) 調査地域

調査地域は、東京都等とした。

(3) 調査手法

調査手法は、表 8.1.11-2 に示すとおりである。

表 8.1.11-2 調査手法

調査事項		東京 2020 大会の実施により増減と思われる、ボランティア活動の状況
調査時点		開催前から開催中とした。
調査期間	予測した事項	開催前から開催中とした。
	予測条件の状況	開催前から開催中とした。
	ミティゲーションの実施状況	開催前から開催中とした。
調査地点	予測した事項	東京都等とした。
	予測条件の状況	東京都等とした。
	ミティゲーションの実施状況	東京都等とした。
調査手法	予測した事項	「東京ボランティアナビ」（東京都オリンピック・パラリンピック準備局ホームページ）や「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会 開催結果報告」（令和 3 年 12 月 東京都オリンピック・パラリンピック準備局）等の既存資料等による方法とした。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び「持続可能性大会後報告書」（令和 3 年 12 月 組織委員会）や「東京 2020 大会振り返り」（令和 3 年 12 月 組織委員会）等の関連資料の整理による方法とした。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び「持続可能性大会後報告書」（令和 3 年 12 月 組織委員会）や「東京 2020 大会振り返り」（令和 3 年 12 月 組織委員会）等の関連資料の整理による方法とした。

(4) 調査結果

1) 調査結果の内容

ア. 予測した事項

(ア) 東京 2020 大会の実施により増減すると思われる、ボランティア活動の状況

東京 2020 大会におけるボランティアの人数は、組織委員会が運営するフィールドキャスト（大会ボランティア）が 80,000 人、東京都が運営するシティキャスト（都市ボランティア）が 30,000 人で、応募者数は、表 8.1.11-3 に示すとおり、フィールドキャスト（大会ボランティア）及びシティキャスト（都市ボランティア）ともに募集人数を上回る応募があった。

また、2019 年（平成 31 年）2 月から 2019 年（令和 2 年）7 月にかけて、組織委員会では、フィールドキャスト（大会ボランティア）を対象に、都内を含む全国 12 か所においてオリエンテーション（概要説明、グループアクティビティ、面談）を実施した。東京都では、同時期にシティキャスト（都市ボランティア）を対象に都内会場において面談・説明会を実施した。

表 8.1.11-3 東京 2020 大会のボランティアの募集・応募状況

応募主体	種別	人数	応募者数
組織委員会	フィールドキャスト（大会ボランティア）	80,000 人	204,680 人
東京都	シティキャスト（都市ボランティア）	30,000 人	36,649 人

出典：「東京 2020 大会ボランティアの応募者数について」（2021 年 8 月 26 日参照 組織委員会ホームページ）

<https://olympics.com/tokyo-2020/ja/games/volunteer-news/vn-20190124-01/>

「東京ボランティアナビ シティキャスト（都市ボランティア）募集に協力いただいた団体・企業」（2021 年 8 月 26 日参照 東京都オリンピック・パラリンピック準備局ホームページ）

<https://www.city-volunteer.metro.tokyo.lg.jp/jp/join/application/outline/companies/index.html>

組織委員会は、フィールドキャスト（大会ボランティア）の活動について、無観客開催に伴い観客案内等の役割を見直し、原則活動の場を提供することで調整し、活動日数が減少したものの最終的には競技の運営や会場運営等の幅広い分野で全員の活動が実現した。

その結果、フィールドキャスト（大会ボランティア）は、辞退者 10,000 人を除き、表 8.1.11-4 に示すとおり 70,970 人（オリンピック 51,672 人、パラリンピック 24,514 人、延べ 76,186 人（両方で活動 5,216 人））が活動した。

東京都は、無観客開催の決定やライブサイトの中止に伴い、観客案内の活動が難しくなったことを受け、参加者の意見も踏まえ、シティキャスト（都市ボランティア）の活動について、ラストマイルや主要駅、ライブサイトにおける観客案内に代え、「大会の応援」、「大会情報の提供」、「東京・地域の魅力発信」、「安全・安心な大会のサポート」等の活動への参加を呼びかけた。これらの活動は、2021 年（令和 3 年）7 月 15 日以降、詳細が決まりしだい順次シティキャストへ周知し、参加者の募集を行った。

シティキャスト（都市ボランティア）の活動内容は表 8.1.11-5 に示すとおりであり、大会を通じて 11,913 名が参加し、延べ 20,676 回の活動を行った（オンラインを活用した活動は都外在住者を含め参加者を募集）。

表 8.1.11-4 フィールド キャスト（大会ボランティア）活動内容・活動人数

活動分野	活動内容	人数
案内※	会場内等で大会関係者の案内や荷物などのセキュリティチェックのサポートを行った。また、競技会場以外にも空港やホテルで、大会関係者が円滑に日本に入国・宿泊できるよう、案内を行った。	16,710 人
競技	競技会場や練習会場内で競技運営等のサポートを行った。競技に必要な備品の管理を手伝うまたは、競技会場内で競技の運営そのものに関わるなど、場所や競技によって活動は多岐にわたった。	17,778 人
移動サポート（運転等）	大会関係者が会場間を移動する際に車を運転し、快適な移動となるようサポートした。	5,393 人
アテンド	海外要人等が快適に日本で生活できるよう、空港や会場等様々な場所で接遇を行った。また、選手が快適な競技生活を送ることができるよう、外国語でのコミュニケーションサポート等を行った。これら以外にも競技を終えた選手がメディアからインタビューを受ける際に、外国語でのコミュニケーションサポート等も行った。	10,463 人
運営サポート	競技会場、選手村、車両運行等の様々な運営サポートを行った。例えば、配付施設でのスタッフ（ボランティア等）のユニフォーム配付や、大会関係者が保有するIDの発行、スタッフが日々の活動を開始する際の「チェックイン」受付等を行った。その他、選手村やメディアセンターにおいて、物品を貸し出すなど、活動の内容や場所は多岐にわたった。	7,493 人
ヘルスケア※	選手にけが人が出た場合、医務室への搬送サポートを行った。「ファーストレスポonder ¹ 」は応急手当セットを所持して2人1組で会場内を巡回した。また、ドーピング検査のサポートは、対象選手への告知、検査室への誘導や受付を行った。	7,221 人
テクノロジー	大会関係者等に向けて、通信機器等の貸出しや回収等のサポートを行った。また、競技会場内の競技が行われている場所で、競技結果の入力や表示を行った。	1,831 人
メディア	国内外のメディアが円滑に取材できるよう、様々なサポートを行った。例えば、記者やフォトグラファーの取材の管理サポート等ほか、記者会見をスムーズに行うための準備・運営サポート等を行った。また、東京2020大会を記録するための記録用写真、動画の編集サポート等を行った。	3,022 人
式典	各競技の表彰式において、選手や大会関係者の案内を行った。また、メダル・記念品の運搬等を含めた表彰式運営のサポートも行った。	1,059 人
合計		70,970 人

※登録上の役割であり、実際は再配置を受けて他の役割で活動している場合多数。

出典：「東京2020大会ボランティア 活動分野・内容」（2021年2月1日参照 組織委員会ホームページ）
<https://tokyo2020.org/jp/special/volunteer/activity/>
「東京2020大会振り返り」（令和3年12月 組織委員会）



（東京都撮影）

写真 8.1.11-1 フィールド キャスト（大会ボランティア）の活動内容の例
案内（左）とヘルスケア（右）

¹ ファーストレスポonder：負傷者・急病人などを救急隊に引き継ぐ前の最初の対応者のこと。必ずしも医療専門家に限定されない。

表 8.1.11-5 シティ キャスト（都市ボランティア）活動内容

活動内容	活動場所	活動日
来場者案内、大会情報の提供 (リモートによる案内も含む)	東京スポーツスクエア	7/19、20、23～9/5
公開収録(東京・地域の魅力発信等)	東京スポーツスクエア	7/19～8/8、8/24～9/5(隔日)
選手等のお迎え、案内	羽田空港	7/18～23、8/16～23
選手等のお見送り、声掛け	羽田空港	8/1～11、9/4～6
メディア関係者の案内	東京都メディアセンター等	7/21～8/8、8/24～9/5
来場者への声掛け (感染症・暑さへの注意喚起)等	聖火台周辺等	7/24～8/8、8/11～9/5 (7/27は台風のため終日中止)
来場者案内、声掛け等	都庁(大会関連展示周辺)	7/30～8/19、8/22～9/4
「みんなの東京2020応援チャンネル」 収録・配信会場サポート	日比谷野外音楽堂	7/23～25、8/1、7、8
	都庁	7/31
来場者案内、会場運営サポート等	パラリンピックギャラリー銀座	7/30～8/19、8/21～9/5
パラ競技・パラアスリートの 応援メッセージの作成	国立オリンピック記念 青少年総合センター	8/19～29
パラリンピック集火式・点火式における 来場者の案内、暑さ対策グッズの配布等	都庁周辺	8/20
	代々木公園	8/24
学校連携観戦のため会場へ向かう 児童・生徒の案内	競技会場周辺	8/25～29、9/1～5
来場者の案内、暑さ対策グッズの配布等	パラ競技体験施設周辺	8/26～9/4
パラマラソン沿道付近における 観戦自粛の呼びかけ	沿道周辺	9/5
大会への応援メッセージをウェブサイト から配信	(オンライン)	7/23～(大会後も発信)
東京・地域の魅力をウェブサイトから配 信	(オンライン)	7/23～(大会後も発信)

出典：「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 開催結果報告」（令和3年12月 東京都オリンピック・パラリンピック準備局）



(東京都撮影)

写真 8.1.11-2 シティ キャスト（都市ボランティア）の活動内容の例
聖火台周辺（左）とパラマラソン沿道（右）

ボランティアの暑さ対策については、2019年（令和元年）夏季に実施したテストイベントにおいて、フィールドキャスト（大会ボランティア）およびシティキャスト（都市ボランティア）応募者の協力を得て、効果的な運営や暑さ対策等に関する検証を行った。

検証結果も踏まえ、研修では、ボランティア活動中の暑さ対策の基礎知識の提供、体調管理ノート（又はアプリ）の活用やこまめな水分補給など熱中症に関する注意喚起を行うとともに、リーダーシップ研修では、安全な活動のサポートのため、メンバーへの体調確認の声かけ等について周知した。

活動に当たり、フィールドキャスト（大会ボランティア）については、当日の水分・

塩分、体調管理ノートやクーリングボディシート等の暑さ対策グッズの提供や、適切な休憩時間の確保を行った。シティ キャスト（都市ボランティア）については、連続する活動時間を最大 60 分とし、活動の合間に休憩するための空調の効いた控室を設置したほか、冷たい飲料水や保冷剤付きネッククーラー等の配布、こまめな水分補給に関する注意喚起などを行った。

ボランティアの研修については、2019 年（令和元年）10 月から 2020 年（令和 2 年）2 月までフィールド キャスト（大会ボランティア）・シティ キャスト（都市ボランティア）向けの共通研修を集合形式で実施した。研修では、ボランティアとしての心構えや大会の理念・概要など活動に当たり必要な基本的情報を提供した。また、ダイバーシティに関する研修も実施し、組織委員会は、障害当事者がファシリテーターとなりダイバーシティ&インクルージョン等について理解を深める研修を実施。東京都は、車いす利用者や視覚障害者のサポート方法について専門の講師が実演を交えた説明を行った。研修は、オンラインや E-learning も活用して実施し、また、多様な参加者への配慮として、託児対応サポートや手話通訳による説明等も行った。

シティ キャスト（都市ボランティア）研修の概要は、表 8.1.11-6 に示すとおりである。

表 8.1.11-6 シティ キャスト（都市ボランティア）研修の概要

種類	主な内容
共通研修	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックの歴史・意義 ・東京 2020 大会の基礎知識 ・シティ キャスト（大会ボランティア）として心構え ・障害者など多様な方々のサポート方法 ・活動に当たっての注意 等
リーダー研修	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーの心構えと役割 ・メンバーとの効果的なコミュニケーション ・多様なメンバーへの配慮（年齢、性別、障害の有無等） ・ボランティアのリーダー像 ・暑さ対策・感染症対策 等
役割別研修	<p>【集合研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シティ キャスト（大会ボランティア）の活動概要 ・活動シフトの確認 ・活動時の注意事項（暑さ対策・感染症対策等） ・救命救急講習（AED を用いた応急手当の方法）
配置場所別研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニフォーム等の受け取り <p>【E-learning】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シティ キャスト（大会ボランティア）の活動概要 ・活動に当たってお願いしたいこと ・AED を用いた応急手当の方法、事務連絡

イ. 予測条件の状況

(ア) 2013 年度（平成 25 年度）以降の計画や取組状況

東京都や組織委員会による 2013 年度（平成 25 年度）以降の計画や取組は、表 8.1.11-7 に示すとおりである。

表 8.1.11-7 東京都や組織委員会の計画や取組

区分	計画や取組内容
ボランティア活動機会の創出や人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・東京 2020 大会では 80,000 人のフィールド キャスト（大会ボランティア）、30,000 人のシティ キャスト（都市ボランティア）を募集し、活動機会の創出 ・東京 2020 大会のボランティア向けに複数の多彩な研修を実施

東京都は、2016 年（平成 28 年）3 月には、東京 2020 大会に向けたボランティアウェブサイト「東京ボランティアナビ」を開設し、過去大会のボランティアや東京 2020 大会のボランティアをはじめ、各種ボランティアの活動機会やボランティア活動を支援する取組に関する情報発信を行ってきた。

東京 2020 オリンピック開幕の 2 年前となる 2018 年（平成 30 年）7 月には、「東京 2020 大会に向けたボランティア PR イベント～みんなでつくる TOKYO2020～」を開催し、オリンピック・パラリンピアンとボランティア経験者、ゲストによるトークセッションを通じボランティアの魅力を伝えるなど、参加気運の醸成に取り組んだ。

2018 年（平成 30 年）6 月に募集要項を公表し、同年 8 月から 11 月の間に募集説明会を全 20 回開催した。同年 9 月からのボランティア募集に先立ち、東京都公式動画チャンネル「東京動画」、電車内ビジョン、駅のデジタルサイネージ、ウェブ広告における PR 映像の放映や都内 62 区市町村、全国の大学、都内駅におけるポスター掲示等通じ募集 PR を行った。こうした取組を通じ、フィールド キャスト（大会ボランティア）には 204,680 名、シティ キャスト（都市ボランティア）には 36,649 名の応募があった。

2019 年（平成 31 年）2 月から 2019 年（令和 2 年）7 月にかけて、組織委員会では、フィールド キャスト（大会ボランティア）を対象に、都内を含む全国 12 か所においてオリエンテーション（概要説明、グループアクティビティ、面談）を実施した。東京都では、同時期にシティ キャスト（都市ボランティア）を対象に都内会場において面談・説明会を実施した。

応募者を対象として面談や共通研修など、2020 年（令和 2 年）初頭にかけて当初の予定どおり実施されたが、一部については、新型コロナウイルス感染症拡大や無観客開催等に伴い、以下のように計画や取組が変更となった。

- ・共通研修は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020 年（令和元年）2 月 22 日以降の開催をいったん延期したが、集合形式に代え、オンライン研修として再開
- ・大会延期前は約 120 の国・地域から約 80,000 人のフィールド キャスト（大会ボランティア）が活躍予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえ、海外在住の外国籍のフィールド キャスト（大会ボランティア）の受入れを断念
- ・無観客開催に伴い観客案内等の役割を見直し、活動日数が減少したものの、競技の運営や会場運営等の幅広い分野で全員の活動が実現し、約 70,000 人がフィールド キャスト（大会ボランティア）として大会に参加
- ・シティ キャスト（都市ボランティア）は、無観客開催に伴い、ラストマイルや主要

駅等における観客案内の役割に代え、「大会の応援」、「大会情報の提供」、「東京・地域の魅力発信」、「安全・安心な大会のサポート」等の活動を展開し、約12,000人がシティキャスト（都市ボランティア）として大会に参加

ウ. ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.1.11-8(1)～(8)に示すとおりである。

表 8.1.1-8(1) ミティゲーションの実施状況

<p>ミティゲーション</p>	<p>・東京 2020 大会に向けたボランティアウェブサイト「東京ボランティアナビ」を運営し、東京 2020 大会のボランティアをはじめ、各種ボランティアについての情報発信やボランティア活動を支援する取組の紹介を行う。</p>										
<p>実施状況</p>	<div data-bbox="146 472 821 1041"> <p>東京都は、2016年(平成28年)に東京2020大会に向けたボランティアウェブサイト「東京ボランティアナビ」を開設し、過去大会のボランティアや東京2020大会のボランティア活動に関する各種情報の発信を行ったほか、東京マラソン等の東京2020大会以外のボランティアに関する情報発信、ボランティア活動を支援する取組の紹介を行った。</p>  <p>シティキャストのユニフォームを発表しました。</p> <p>みんなで一緒に 東京2020大会を盛り上げよう！</p> <p>シティキャストマイページにログイン</p> </div> <div data-bbox="821 472 1527 1041"> <p>トップページ ニュース シティキャスト(都市ボランティア) 面談・説明会のご案内</p> <p>シティキャスト(都市ボランティア) 面談・説明会のご案内</p> <p>東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のシティキャスト(都市ボランティア)にご応募いただいた方を対象に、シティキャストの活動内容や大会までの流れをご説明するとともに、活動にあたってのご都合やご意向をお伺いするため、面談・説明会を開催いたします。</p> <p>面談・説明会は、本年2月から7月にかけて、土日・夜間を含め幅広い日程をご用意しております。ご応募いただいた方は下記をご参照いただきながら、参加可能な日程をご予約いただきますようお願いいたします。</p> <p>開催期間 平成31年2月9日～7月末頃</p> </div> <div data-bbox="146 1041 821 1489"> <p>「東京ボランティアナビ」ウェブサイトトップページ</p> <p>トップページ ニュース シティキャスト共通研修の再開について(集合研修未受講の方)</p> <p>シティキャスト共通研修の再開について(集合研修未受講の方)</p> <p>※はじめに※ 既に集合研修へ参加された方は、下記を受講いただく必要はありませんが、研修の映像は視聴いただけますので、必要に応じ、振り返りなどに活用ください。</p> <p>昨年10月より実施しております共通研修は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、本年2月22日以降の開催分を延期していました。</p> <p>このたび、ご自身のパソコンやスマートフォンからご覧いただけるオンライン研修として再開しましたので、共通研修をまだ受講されていない方は期間内に受講いただけますようお願いいたします。</p> <p>実施期間 令和2(2020)年8月31日(月)から12月末頃まで</p> </div> <div data-bbox="821 1041 1527 1489"> <p>東京2020大会ボランティア活動の情報発信</p> <p>トップページ ニュース シティキャストの感染予防マニュアルについて</p> <p>シティキャストの感染予防マニュアルについて</p> <p>東京都では、東京2020大会のシティキャストに安全・安心な活動環境を提供するため、新型コロナウイルス感染症対策調整会議の整理や専門家の知見※、フィールドキャストの感染症対策等を踏まえ、研修や活動時における感染予防マニュアルの作成を進め、本年3月には、その概要を公表したところです。</p> <p>このたび、新たな対策も追加のうえ、シティキャストの感染予防マニュアルを作成しましたので、お知らせします。</p> <p>※本マニュアルは、国立国際医療研究センター 忽那賢志先生のご意見もいただきながら作成しています。</p> </div> <div data-bbox="146 1489 821 2004"> <p>東京2020大会ボランティア活動の情報発信</p> <p>他団体のボランティア</p> <p>東京マラソン2021ボランティア募集開始</p> <p>掲載日：2021年5月10日</p> <table border="1" data-bbox="199 1691 782 1937"> <tr> <td>主催者</td> <td>一般財団法人 東京マラソン財団</td> </tr> <tr> <td>募集期間</td> <td>リーダーサポート・チーム：2021年5月11日(火)から23日(日) リーダー・メンバー・ジュニア：2021年5月25日(火)から6月13日(日)</td> </tr> <tr> <td>活動日</td> <td>大会当日：2021年10月17日(日) 関連イベント：2021年10月14日(木)～16(土)</td> </tr> <tr> <td>募集内容</td> <td>東京マラソン2021及び関連イベントのボランティア</td> </tr> </table> <p>詳細を確認する</p> <p>その他の各種ボランティア募集情報</p> </div> <div data-bbox="821 1489 1527 2004"> <p>東京2020大会ボランティア活動の情報発信</p> <p>トップページ > 知る > 外国の方々をおもてなしするボランティアの取組</p> <p>外国の方々をおもてなしするボランティアの取組</p> <p>大会を機に東京を訪れる多くの外国のお客様をおもてなしするボランティアの取組を紹介します。</p> <div data-bbox="1069 1702 1484 1971"> <table border="1"> <tr> <td> <p>東京都観光ボランティア</p> <p>2020年の都市ボランティアの中心に</p>  <p>詳しくは、東京都産業労働局観光部ウェブサイト ☒</p> </td> <td> <p>外国人おもてなし語学ボランティア</p> <p>2020年に向けてスキルを高めよう</p>  <p>詳しくは、外国人おもてなし語学ボランティアweb ☒</p> </td> </tr> </table> </div> <p>ボランティア活動を支援する取組の紹介</p> </div>	主催者	一般財団法人 東京マラソン財団	募集期間	リーダーサポート・チーム：2021年5月11日(火)から23日(日) リーダー・メンバー・ジュニア：2021年5月25日(火)から6月13日(日)	活動日	大会当日：2021年10月17日(日) 関連イベント：2021年10月14日(木)～16(土)	募集内容	東京マラソン2021及び関連イベントのボランティア	<p>東京都観光ボランティア</p> <p>2020年の都市ボランティアの中心に</p>  <p>詳しくは、東京都産業労働局観光部ウェブサイト ☒</p>	<p>外国人おもてなし語学ボランティア</p> <p>2020年に向けてスキルを高めよう</p>  <p>詳しくは、外国人おもてなし語学ボランティアweb ☒</p>
主催者	一般財団法人 東京マラソン財団										
募集期間	リーダーサポート・チーム：2021年5月11日(火)から23日(日) リーダー・メンバー・ジュニア：2021年5月25日(火)から6月13日(日)										
活動日	大会当日：2021年10月17日(日) 関連イベント：2021年10月14日(木)～16(土)										
募集内容	東京マラソン2021及び関連イベントのボランティア										
<p>東京都観光ボランティア</p> <p>2020年の都市ボランティアの中心に</p>  <p>詳しくは、東京都産業労働局観光部ウェブサイト ☒</p>	<p>外国人おもてなし語学ボランティア</p> <p>2020年に向けてスキルを高めよう</p>  <p>詳しくは、外国人おもてなし語学ボランティアweb ☒</p>										

表 8.1.11-9(2) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	<ul style="list-style-type: none"> 東京 2020 大会では、年齢、性別、国籍、障害の有無に関わらず、多様な人々がボランティアとして参加できるようフィールド キャスト（大会ボランティア）80,000 人、シティ キャスト（都市ボランティア）30,000 人程度の計 110,000 人程度のボランティアの参加の機会を創出する。また、組織委員会は、東京都以外の競技会場を有する自治体や東京都の区市とも連携して、ボランティアの参加の機会を創出する。
----------	--

実施状況

東京 2020 大会では、当初、組織委員会が 80,000 人のフィールド キャスト（大会ボランティア）、東京都が 30,000 人のシティ キャスト（都市ボランティア）の活動を予定していたが、無観客開催に伴い観客案内以外の活動を実施した結果、70,970 人のフィールド キャスト（大会ボランティア）、11,913 人のシティ キャスト（都市ボランティア）が活動に参加した。

また、東京都以外の競技会場を有する関係自治体（札幌市、宮城県、福島県、茨城県、埼玉県、千葉県、横浜市、藤沢市、静岡県）においてもシティ キャスト（都市ボランティア）の参加機会を創出した。多くが無観客開催となったが、開催都市である東京都と関係自治体あわせて 15,698 人が活動した²。

表 競技会場を有する東京都以外の自治体におけるボランティアの活動例

主体	活動例	主体	活動例
札幌市	マラソン・競歩開催時の交通規制・迂回案内	埼玉県	選手・大会関係者への応援・歓迎、清掃活動等
宮城県	駅・空港、競技会場周辺での観光・交通案内等	千葉県	空港での選手・大会関係者の出迎え・見送り等
福島県	県の魅力や大会情報を SNS で発信	藤沢市	選手の出迎え、応援メッセージの SNS 発信等
茨城県	学校連携観戦での案内・誘導、見守り等	静岡県	交通・観光案内、バス乗り場案内、美化活動等

出典：「東京 2020 大会振り返り」（令和 3 年 12 月 組織委員会）をもとに作成



(東京都撮影)

競技会場内のフィールド キャストの活動の例
(競技会場の消毒作業の様子)



(東京都撮影)

競技会場内のフィールド キャストの活動の例
(会場内を巡回するファーストレスポnderの様子)



(東京都撮影)

競技コース沿道のフィールド キャストの活動の例
(選手への給水の様子)



(東京都撮影)

競技コース沿道のフィールド キャストの活動の例
(路上清掃の様子)

² 出典：「東京 2020 大会振り返り」（令和 3 年 12 月 組織委員会）

表 8.1.11-9(3) ミティゲーションの実施状況

実施状況 (つづき)



(東京都撮影)

競技コース沿道のフィールドキャストの活動の例
(沿道での観戦自粛の呼びかけの様子)



(東京都撮影)

競技会場周辺のフィールドキャストの活動の例
(交通規制の案内の様子)



(東京都撮影)

シティキャストの活動の例
(聖火台周辺での来場者への声掛けの様子)



(東京都撮影)

シティキャストの活動の例
(東京スポーツスクエアでの情報提供)



(東京都撮影)

シティキャストの活動の例
(沿道での観戦自粛の呼びかけの様子)



出典：「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会 開催結果報告」(令和 3 年 12 月 東京都オリンピック・パラリンピック準備局)

シティキャストの活動の例
(羽田空港における選手のお迎え)

表 8.1.11-9(4) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	<ul style="list-style-type: none"> 組織委員会では、全国約 800 の大学・短期大学と連携協定の締結をスタートさせ、様々な活動に取り組んでいる。この一環として、学生による新しいオリンピック・パラリンピックムーブメントの広がりが、東京 2020 大会のボランティアとして大会を支える存在になることを目指し、連携協定を締結している大学・短期大学に在学する学生及び教職員を対象に「大学連携'18 プログラム 東京 2020 オリンピック・パラリンピックボランティア募集説明会」を開催した。
実施状況	
<p>組織委員会では、協定を締結する連携大学及び在学生に向けて、さまざまなイベントやプログラムに取り組んだ。2018 年(平成 28 年)7~10 月にかけて、東京 2020 大会ボランティアの募集開始に先立ち、連携協定締結大学・短期大学に在学する学生及び教職員を対象に、全国 13 の連携大学を会場として「大学連携'18 プログラム 東京 2020 オリンピック・パラリンピックボランティア募集説明会」を開催した。説明会は、東京都や各自治体と連携し、シティ キャスト(都市ボランティア)に関する説明も行った。説明会には、208 大学から学生 2,040 名、教職員 620 名の参加を得て、参加者から東京 2020 大会のボランティア募集に関する積極的な意見や質問が多く寄せられた。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	
<p>出典：「大学連携'18 プログラム 東京 2020 オリンピック・パラリンピック ボランティア募集説明会」(2021 年 8 月 26 日参照 組織委員会ホームページ)</p>	
<p>https://olympics.com/tokyo-2020/ja/games/volunteer20181026-01/ ボランティア説明会の開催状況</p>	

表 8.1.11-9(5) ミティゲーションの実施状況

<p>ミティゲーション</p>	<p>・大会ボランティア応募者を対象に実施したオリエンテーションでは、手話通訳者や筆談ツール等の整備、タブレット端末でのテレビ電話による遠隔手話通訳等の聴覚障害者向けコミュニケーションツールの導入、託児対応サポートなど、多様な参加者への配慮を行った。</p>
-----------------	---

実施状況

組織委員会では、フィールド キャスト（大会ボランティア）を対象に、オリンピック・パラリンピックの雰囲気を感じ、チームワークを高めるため、2019年（平成31年）2～2019年（令和元年）7月にかけてオリエンテーションを実施した。

オリエンテーションでは、手話通訳者や筆談ツール等の整備、タブレット端末でのテレビ電話による遠隔手話通訳等の聴覚障害者向けコミュニケーションツールの導入、託児対応サポートなど、多様な参加者への配慮を行った。

東京都においてもシティ キャスト（都市ボランティア）への面談・説明会を同時期に実施した。説明会では、シティ キャスト（都市ボランティア）の活動内容や今後の研修等に関する説明、グループアクティビティを実施し、面談では、参加者が希望する活動内容や配慮を求める事項等を確認した。東京都の面談・説明会においても、手話通訳者や筆談ツール等の整備、託児対応サポートなどを行った。



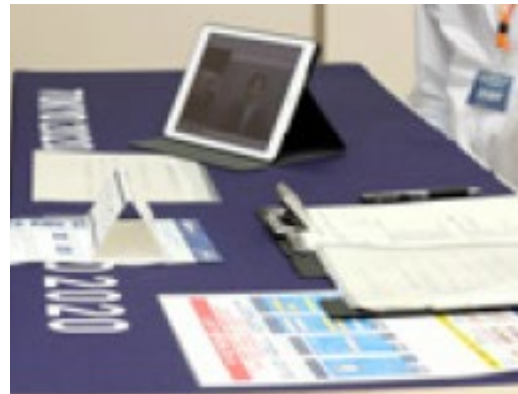
出典：「持続可能性大会前報告書」（令和2年4月 組織委員会）

ボランティアオリエンテーション・面談風景



（東京都撮影）

託児対応サポート



出典：「持続可能性大会前報告書」（令和2年4月 組織委員会）

聴覚障害者との面談におけるコミュニケーションへの対応と聴覚障害者向けコミュニケーションツール

表 8.1.11-9(6) ミティゲーションの実施状況

<p>ミティゲーション</p>	<p>・東京都では、ボランティアの着実な育成と共助社会の実現に向けて、ボランティア人材の育成等を行っている。東京都及び組織委員会では、オリンピック・パラリンピック競技大会に関する知識など、フィールドキャスト（大会ボランティア）・シティキャスト（都市ボランティア）に共通して必要な研修を連携して実施し、東京 2020 大会を契機としたボランティア人材の育成を行う。</p>
<p>実施状況</p>	<p>フィールドキャスト（大会ボランティア）及びシティキャスト（都市ボランティア）向けの共通研修、リーダーシップ研修、役割別・会場別（配置場所別）研修を集合形式に加え、オンラインや E-learning も活用して実施した。</p> <p>研修では、ボランティアとしての心構えや大会の理念・概要など活動に当たり必要な基本的情報を提供した。また、ダイバーシティに関する研修も実施し、組織委員会は、障害当事者がファシリテーターとなりダイバーシティ&インクルージョン等について理解を深める研修を実施した。東京都は、車いす利用者や視覚障害者のサポート方法について専門の講師が実演を交えた説明を行った。</p>
	
<p>出典：「持続可能性大会前報告書」（令和 2 年 4 月 組織委員会） フィールドキャスト（大会ボランティア）研修風景</p>	<p>（東京都撮影） シティキャスト（都市ボランティア）向け研修風景</p>
	 <p>出典：「持続可能性大会後報告書」（令和 3 年 12 月 組織委員会） E-learning 教材の一部</p>
<p>共通研修のテキスト</p>	<p>E-learning 教材の一部</p>

表 8.1.11-9(7) ミティゲーションの実施状況

<p>ミティゲーション</p>	<p>・組織委員会では、フィールド キャスト（大会ボランティア）向けの研修において、暑さ対策の基礎知識の提供や注意喚起、リーダーに対する周知徹底等を行う。また、東京都では、テストイベントにおいてシティ キャスト（都市ボランティア）の試行を行った。テストイベントでの検証結果を踏まえ、当日の天候や体力等を踏まえた休憩等のマニュアルの作成、かぶる傘の提供等の対応を検討する。</p>
<p>実施状況</p>	<p>ボランティアの暑さ対策については、2019年（令和元年）夏季に実施したテストイベントにおいて、フィールド キャスト（大会ボランティア）及びシティ キャスト（都市ボランティア）応募者の協力を得て、効果的な運営や暑さ対策等に関する検証を行った。</p> <p>検証結果も踏まえ、研修では、ボランティア活動中の暑さ対策の基礎知識の提供、体調管理ノート（又はアプリ）の活用やこまめな水分補給など熱中症に関する注意喚起を行うとともに、リーダーシップ研修では、安全な活動のサポートのため、メンバーへの体調確認の声かけ等について周知した。</p> <p>活動に当たり、フィールド キャスト（大会ボランティア）については、当日の水分・塩分、体調管理ノートやクーリングボディシート等の暑さ対策グッズの提供や、適切な休憩時間の確保を行った。シティ キャスト（都市ボランティア）については、連続する活動時間を最大 60 分とし、活動の合間に休憩するための空調の効いた控室を設置したほか、冷たい飲料水や保冷剤付きネッククーラー等の配布、こまめな水分補給に関する注意喚起等を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>（東京都撮影）</p> <p>屋外での日除け・ミストの設置</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>（東京都撮影）</p> <p>ボランティアの休憩所</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>（東京都撮影）</p> <p>飲料水の提供</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>（東京都撮影）</p> <p>ウォーターサーバーの設置</p> </div> </div>

表 8.1.11-9(8) ミティゲーションの実施状況

実施状況 (つづき)



(東京都撮影)

アイスクリームの提供



(東京都撮影)

塩分補給タブレットの提供



(東京都撮影)

クールタオルの提供



(東京都撮影)

クーリングボディシートの提供



(東京都撮影)

かぶる傘の提供



(東京都撮影)

体調管理ノートの提供



(東京都撮影)

暑さの注意喚起

2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

ア. 予測した事項

(ア) 東京 2020 大会の実施により増減すると思われる、ボランティア活動の状況

東京都や組織委員会では、2018 年（平成 30 年）9 月には、東京都がシティ キャスト（都市ボランティア）、組織委員会がフィールド キャスト（大会ボランティア）の募集を開始し、それぞれ募集人数を上回る応募があった。

ボランティアの研修については、2019 年（令和元年 10 月から 2020 年（令和 2 年）2 月までフィールド キャスト（大会ボランティア）・シティ キャスト（都市ボランティア）向けの共通研修を集合形式で実施した。研修では、ボランティアとしての心構えや大会の理念・概要など活動に当たり必要な基本的情報を映像やクイズ、グループワークを通して提供するとともに、ダイバーシティに関する研修も実施した。共通研修は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020 年（令和元年）2 月 22 日以降の開催をいったん延期したが、集合形式に代え、オンライン研修として再開した。また、リーダーシップ研修や役割別・会場別（配置場所別）研修についてもオンラインや E-learning も活用して実施した。多様な参加者への配慮として、託児対応サポートや手話通訳による説明等も実施した。

ボランティアの暑さ対策については、2019 年（令和元年）夏季に実施したテストイベントにおいて、フィールド キャスト（大会ボランティア）及びシティ キャスト（都市ボランティア）応募者の協力を得て、効果的な運営や暑さ対策等に関する検証を行った。研修においては、ボランティア活動中の暑さ対策の基礎知識の提供、体調管理ノート（又はアプリ）の活用やこまめな水分補給など熱中症に関する注意喚起を行うとともに、リーダーシップ研修では、安全な活動のサポートのため、メンバーへの体調確認の声かけ等について周知した。

また、ボランティアの感染症対策については、安全・安心な活動環境を提供するためのマニュアルやルールブックの作成、PCR 検査の実施、希望するボランティアに対してのワクチン接種機会の提供に取り組んだ。

組織委員会は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえ、海外在住の外国籍のフィールド キャスト（大会ボランティア）の受入れを断念した。また、無観客開催に伴い観客案内等の役割を見直し、活動日数が減少したものの、競技の運営や会場運営等の幅広い分野で全員の活動が実現し、約 70,000 人が大会に参加した。

東京都は、無観客開催の決定やライブサイトの中止に伴い、観客案内の活動が難しくなったことを受け、参加者の意見も踏まえ、シティ キャスト（都市ボランティア）の大会時の活動について、ラストマイルや主要駅、ライブサイトにおける観客案内の役割に代え、「大会の応援」、「大会情報の提供」、「東京・地域の魅力発信」、「安全・安心な大会のサポート」等の活動を展開し、約 12,000 人が大会に参加した。

以上のことから、当初の計画や取組に変更が生じたものの、様々な活動の場の提供、オンライン研修等の活用、ボランティア向けの暑さ対策や感染症対策の実施等による安全・安心な活動環境を提供したことにより、予測結果と同様に、東京 2020 大会におけるボランティア活動への参加機会は充実したものと考えている。

(空白のページ)